

## 全校一斉読書における学級文庫の在り方

田澤 彩香

本研究では、小学校における学級文庫の現状と問題点を明らかにし、全校一斉読書において有効活用されるような学級文庫づくりには何が必要かを考察するものである。研究方法として質問紙調査と訪問調査を行った。

学級文庫は明治末・大正期に一部の教師等によって学校図書館の代わりとして設置されたのが始まりである。その後学校図書館の普及とともに学級文庫は学校図書館の分館としての役割を果たすようになった。子どもの読書推進活動が活発化した現代においても、学級文庫は変わらず設置され、読書環境の整備のため・全校一斉読書利用時のために置かれていることが多い。しかし、学級文庫は子どもの読書推進活動が活発になってからは研究がほとんど行われていない。実情に即した学級文庫作りをするためにも、全校一斉読書における学級文庫の在り方を明らかにすることは急務である。

全校一斉読書と学級文庫に関する質問紙調査においては以下のことが明らかになった。全校一斉読書はほとんどの小学校で、全校一斉に、週に一度、始業前の時間を利用して 10分から 20 分程度行われることが分かった。また、全校一斉読書時には学校図書館の本を比較的使用していることが明らかになった。しかし一方で、朝の読書 4 原則の遵守、全校一斉読書や学級文庫に対する全職員の共通理解の徹底、予算を使わない充実した学級文庫作り、学級担任や学校図書館担当者の負担にならない学級文庫の管理・運営の模索といった課題も浮き彫りとなった。

訪問調査においては、訪問先の A 小学校と B 小学校の現状と問題点が明らかになった。その結果、学級文庫における課題として、児童に手にとってもらえるような、古くない、状態の悪くない本を置くこと、管理・運営の方法をできるだけ単純化させることで、学級担任や学校図書館司書の業務負担の軽減を行うこと、学級文庫の制度について各学級の担任の理解を得ること、本が今どこにあるのかがわかるよう、管理を行うことといった 4 点が明らかになった。

これらのことから、現状の学級文庫の課題の解決方法として、以下の 6 点があげられた。(1)その学年に合ったものだけでなく、少し低年齢向けの本や少し大人向けの本など、バリエーション豊かな選書を心がけること。(2)広報活動を通じて、全職員の学級文庫に対する理解を深めること。(3)選書基準の設定や選書者の組織作り等といった体制を整えること。(4)学校図書館や公共図書館、古本屋等を活用し、できるだけ古くない、状態の悪くない本を学級文庫に置くこと。(5)学級文庫の管理・運営の役割分担を明確にし、単純化を図ることで学級担任や学校図書館担当者の業務負担の軽減を行うこと。(6)バーコード管理等によって本の紛失の防止や本の利用傾向の明確化を図ること。

(指導教員 平久江祐司)